

株式会社 MORESCO

第68期(2026年2月期)

第2四半期(中間期)業績の概要

(2025年3月1日～2025年8月31日)

東証スタンダード 5018(石油・石炭製品)

2025/10/20

目 次

● 経営環境および業績の概要

● 財務の状況

● トピックス

目 次

● 経営環境および業績の概要

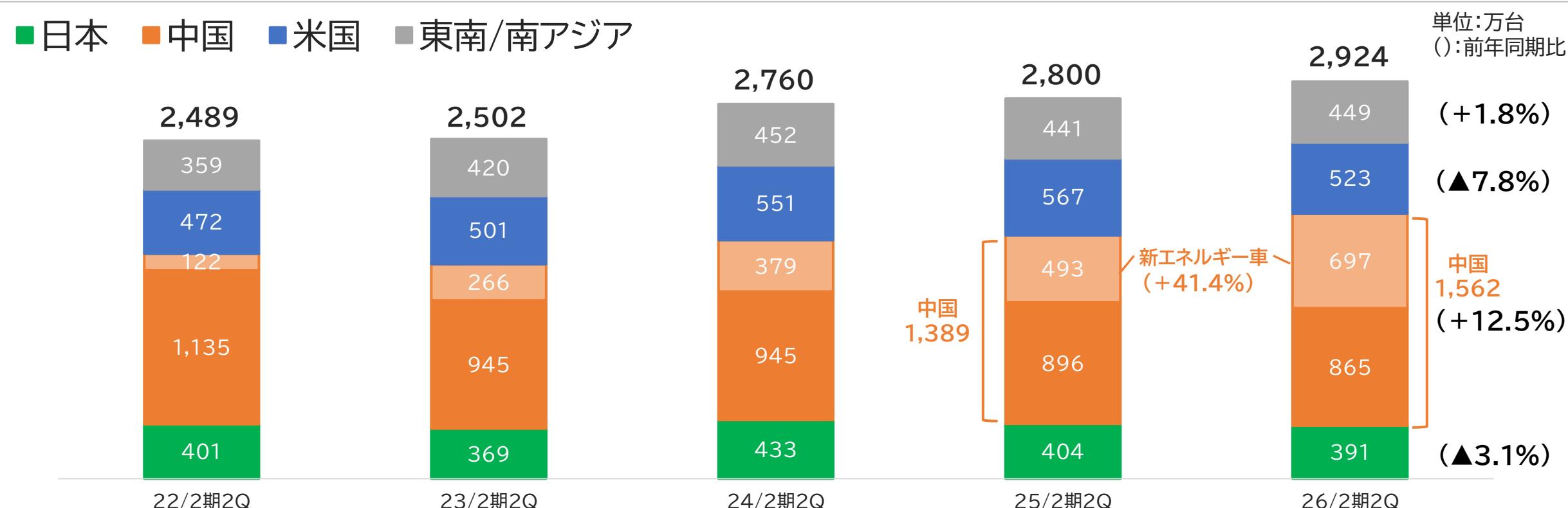
● 財務の状況

● トピックス

当中間期の経営環境-自動車生産台数

- 日本国内の生産台数は前年同期比で3.1%減と低調。米国は7.8%の大幅減
 - 中国は新エネルギー車がけん引し、従来型車を含む全体で12.5%増と成長が続く

当社拠点所在地域における自動車生産台数の推移



出所：マークライنز社の資料をもとに当社作成

注1: 当社の会計年度を基準に集計(日本:3月~8月 海外:1月~6月)

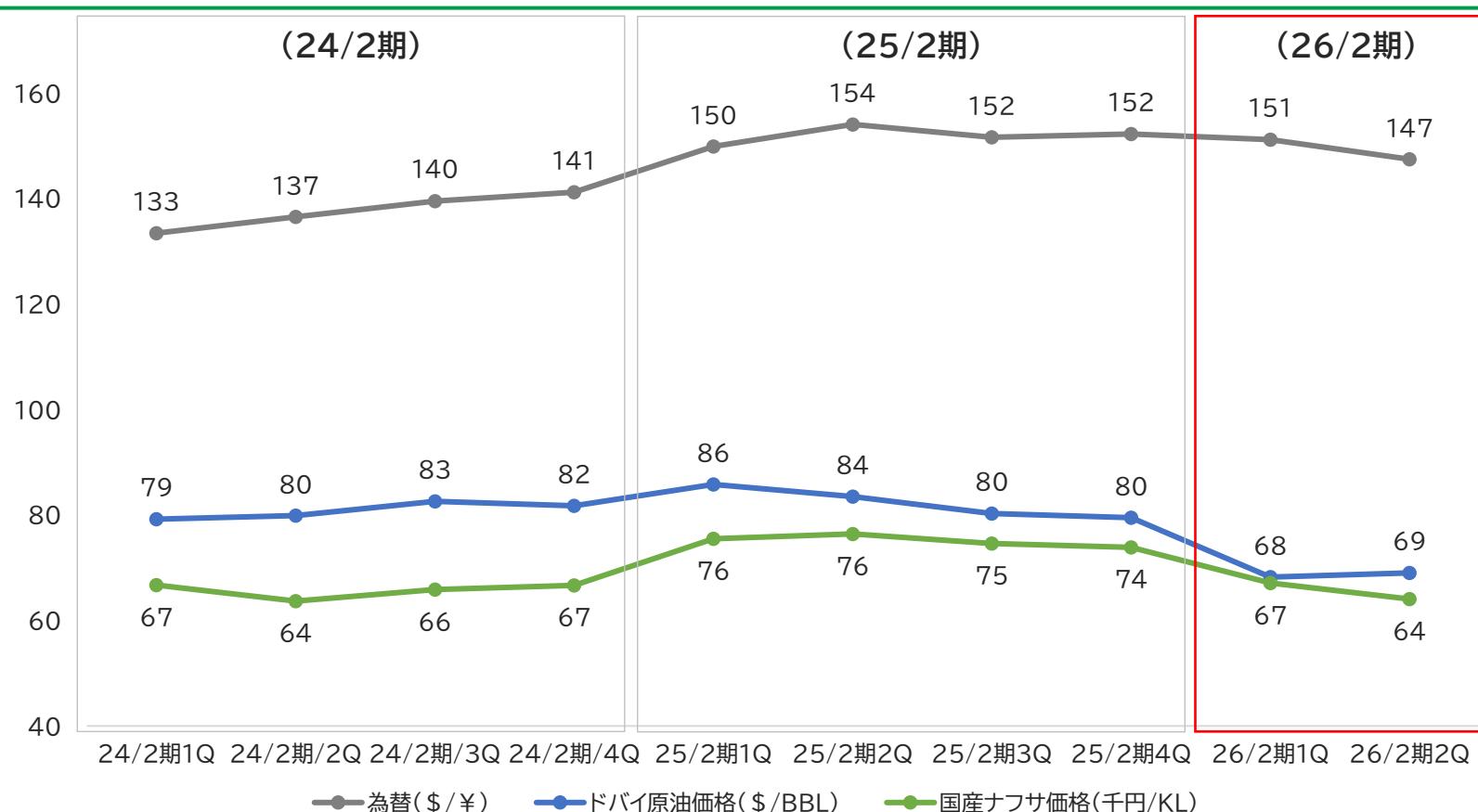
注1: 当社の会計年度と基準に統一(日本:3月~6月 海外:1月~6月)

注2: 東南/南アジアは、当社拠点のあるタイ、インドネシアとインドを集計

当中間期の経営環境-為替・原油・ナフサ価格の推移

- 第2四半期の為替レート(ドル/円)は円高傾向で推移
- 原油価格は低位で推移し、計画を下回る

為替・原油・ナフサ価格の推移(四半期)



計画との比較

	26/2期 (3~8月平均)	26/2期 計画	計画比
為替レート (\$/¥)	147.5	145.0	+2.5
原油価格 (\$/BBL)	69.1	79.5	-10.4
国産ナフサ価格 (千円/KL)	64.1	-	-

連結損益計算書

- 自動車生産台数の減少およびホットメルト接着剤部門の売上減少が影響し減収
- 為替差損が影響し、経常利益と中間純利益は減益

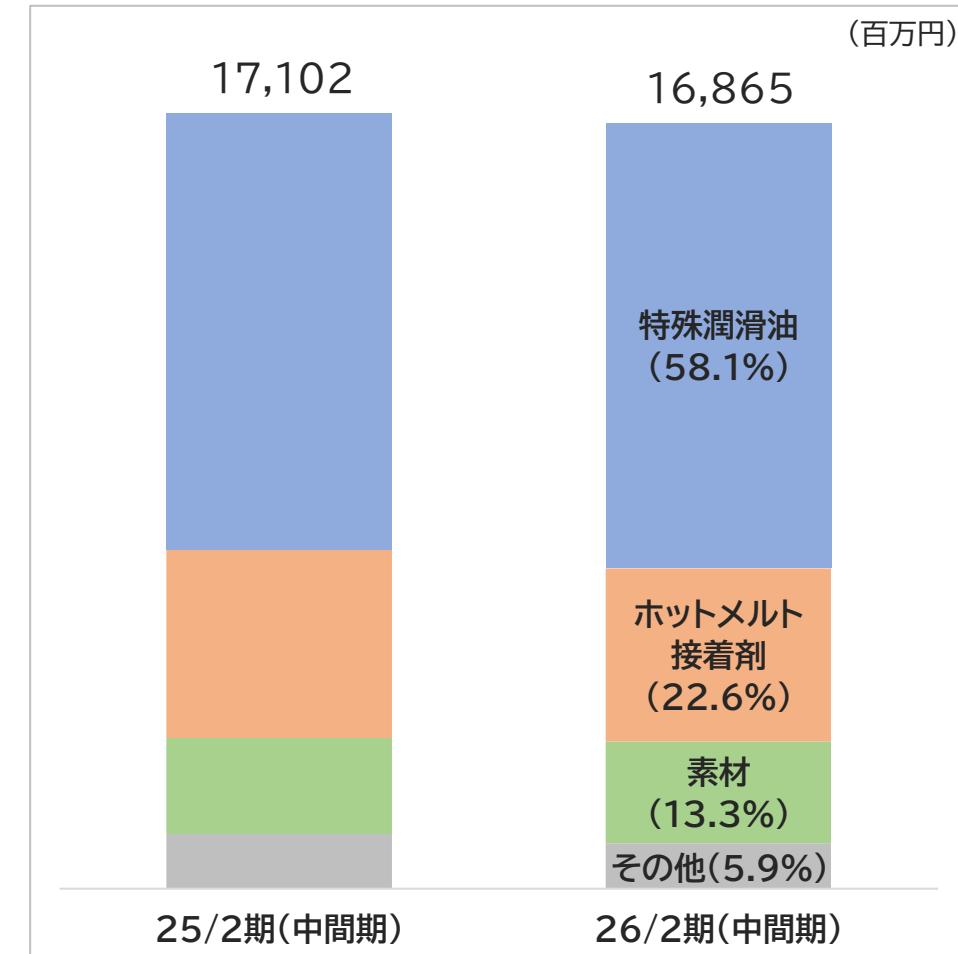
(単位:百万円)	25年2月期 中間期	26年2月期 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	17,102	16,865	▲237	▲1.4%
売上総利益	4,901	5,122	+221	+4.5%
販管費	4,230	4,173	▲57	▲1.4%
営業利益	671	949	+279	+41.5%
営業外損益	294	▲28	▲322	▲109.5%
経常利益	965	922	▲43	▲4.5%
税引前利益	917	919	+2	+0.2%
中間純利益※	576	506	▲70	▲12.1%

※親会社株主に帰属する中間純利益

部門別売上高

- ハードディスク表面潤滑剤は好調を維持(特殊潤滑油部門)
- 流動パラフィンの需要は堅調(素材部門)

(単位:百万円)	25年2月期 中間期	26年2月期 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
特殊潤滑油部門	9,628	9,804	+176	+1.8%
ホットメルト接着剤部門	4,152	3,815	▲337	▲8.1%
素材部門	2,114	2,243	+129	+6.1%
その他	1,208	1,002	▲206	▲17.0%
売上高合計	17,102	16,865	▲237	▲1.4%



特殊潤滑油部門

【売上高】前年同期比1.8%増(9,804百万円)

【売上数量】前年同期比0.8%減

DC(ダイカスト)油剤

- 顧客の稼働率低下により減収

切削油剤

- 中国、日本、北米が好調に推移し
增收

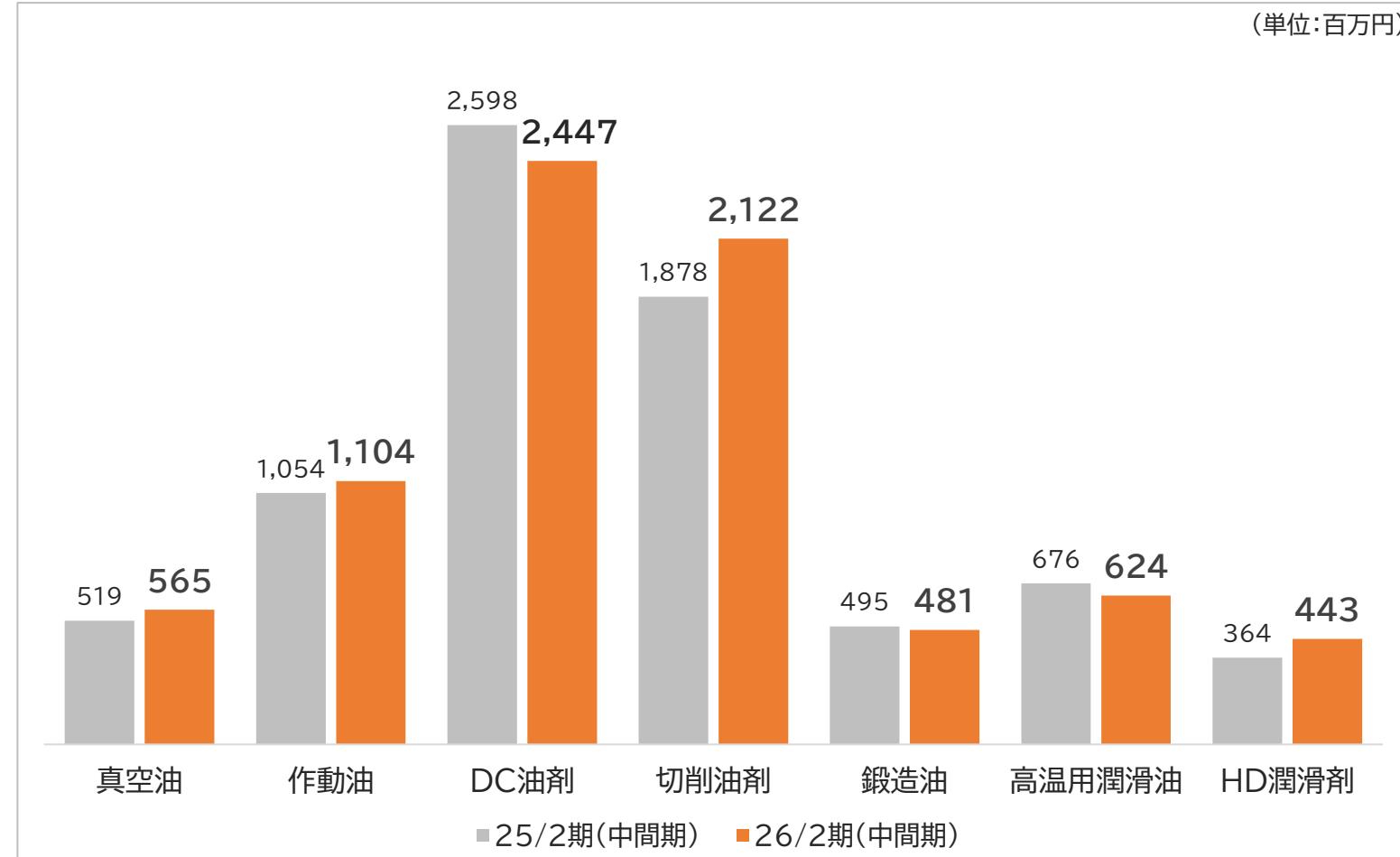
高温用潤滑油

- 国内需要の低下により減収

HD(ハードディスク)潤滑剤

- 好調を維持し增收

(単位:百万円)



ホットメルト接着剤部門

【売上高】前年同期比8.1%減(3,815百万円)

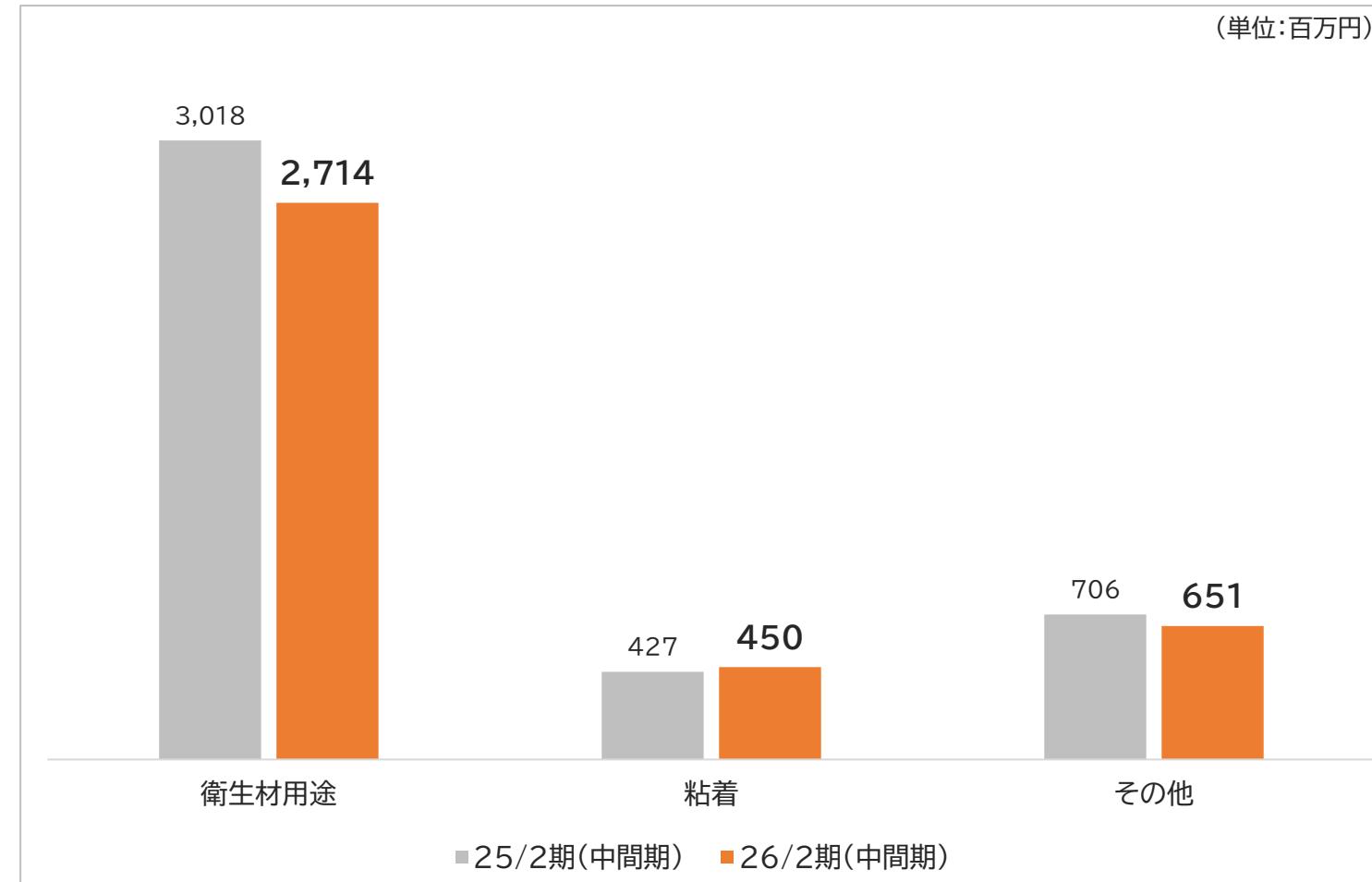
【売上数量】前年同期比6.4%減

衛生材用途

- ・日本、中国の販売数量が減少し減収

粘着

- ・日本、中国での販売が回復し増収



【売上高】前年同期比6.1%増(2,243百万円)

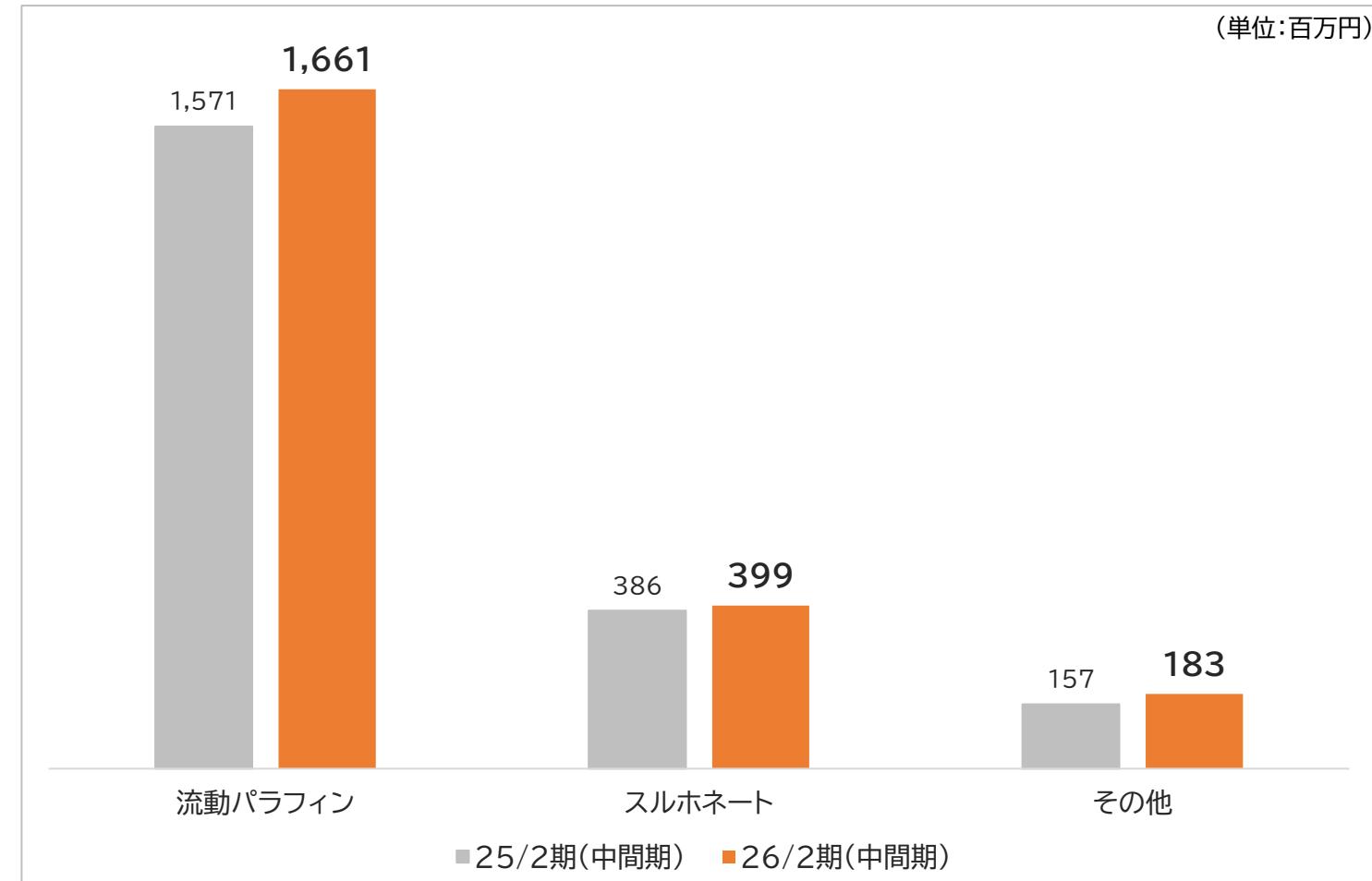
【売上数量】前年同期比4.1%増

流動パラフィン

- 販売価格の是正およびポリスチレン可塑剤用途向けの需要回復により増収

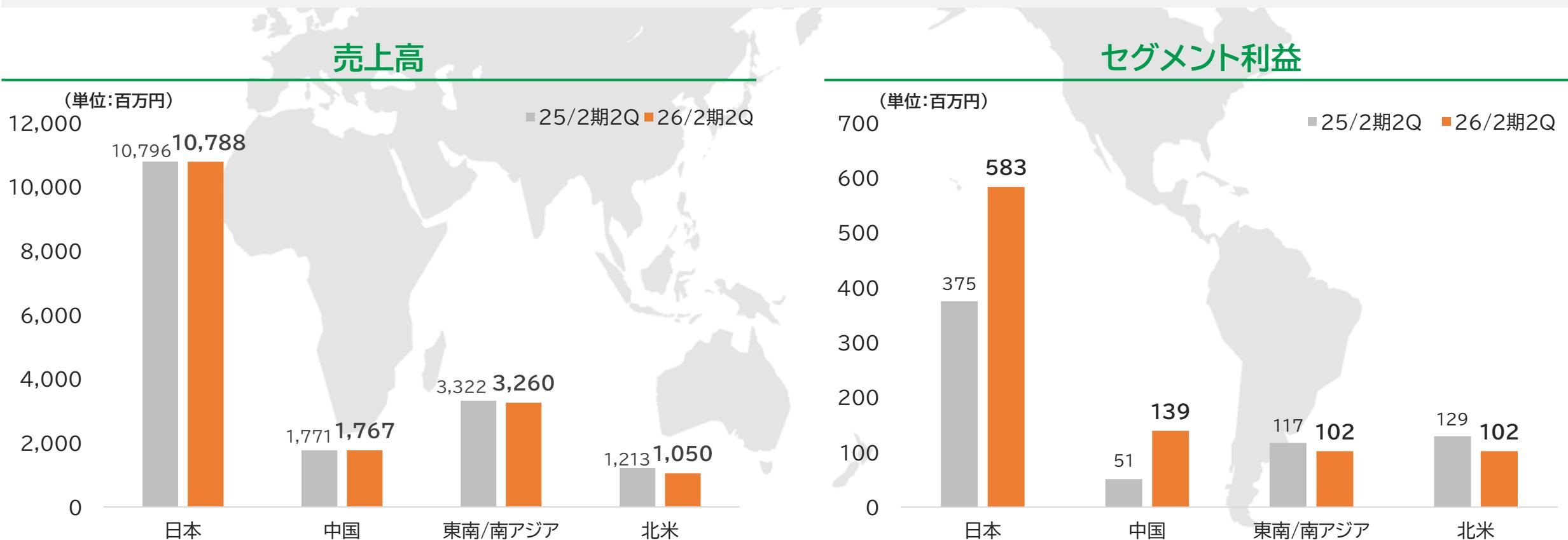
スルホネート

- 国内需要が堅調に推移し増収



連結セグメント損益

- 【日本】 切削油剤の新規拡販やデータセンター向けハードディスク表面潤滑剤の販売増により増収増益
- 【中国】 日系メーカーの稼働率低下により減収も、切削油剤および粘着剤の増販と合理化が進み増益
- 【東南/南アジア】 ホットメルト接着剤の需要減が影響し減収減益
- 【北米】 自動車生産台数の減少により主要顧客の需要が低水準となり、減収減益



目 次

● 経営環境および業績の概要

● 財務の状況

● トピックス

連結損益計算書

▶ 売上高

- 自動車生産台数の減少およびホットメルト接着剤部門の売上減少が影響し減収

▶ 営業利益

- 付加価値製品の拡販、販管費の抑制などにより増益
- 研究開発費は、前年同期の一時的な支出が剥落

▶ 中間純利益

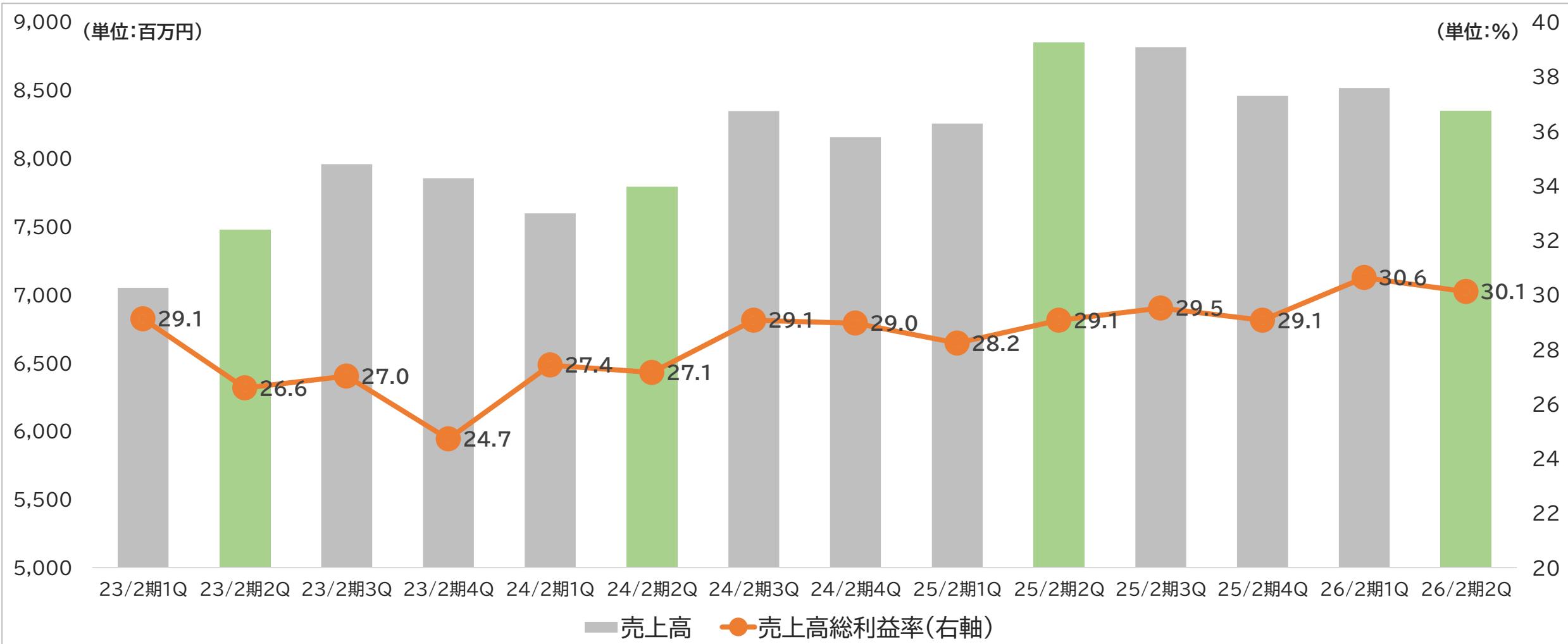
- 為替差損の影響により減益

(単位:百万円)	25/2期 中間期	26/2期 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	17,102	16,865	▲237	▲1.4%
売上総利益	4,901	5,122	+221	+4.5%
販管費	4,230	4,173	▲57	▲1.4%
研究開発費	(810)	(777)	▲33	▲4.1%
営業利益	671	949	+279	+41.5%
営業外損益	294	▲28	▲322	▲109.5%
経常利益	965	922	▲43	▲4.5%
税引前利益	917	919	+2	+0.2%
中間純利益※	576	506	▲70	▲12.1%

※親会社株主に帰属する中間純利益

売上高および売上高総利益率の推移(四半期ベース)

- 付加価値製品の販売増などにより売上高総利益率は30%台を維持



連結貸借対照表

		(単位:百万円)		増減額 (前期末比)	増減額 (前期末比)	
棚卸資産		現預金	5,068	▲439	仕入債務	4,752
・商品および製品	▲313	売上債権	8,156	+25	有利子負債	4,477
有形固定資産		棚卸資産	6,550	▲577	その他流動負債	1,945
・建物および構築物	▲314	その他	588	+93	その他固定負債	1,064
有利子負債		流動資産合計	20,362	▲898	負債合計	12,238
・長期借入金	▲502	有形固定資産	9,780	▲634	資本金・資本剰余金	4,090
包括利益累計額		無形固定資産	1,247	▲125	利益剰余金	15,549
・為替換算調整勘定	▲829	投資その他	5,186	▲65	自己株式	△641
					包括利益累計額	2,146
					非支配株主持分	3,192
		固定資産合計	16,212	▲825	純資産合計	24,336
		資産合計	36,574	▲1,723	負債・資本合計	36,574
						▲1,723

連結キャッシュフロー

▶ 主な増減要因

営業キャッシュフロー

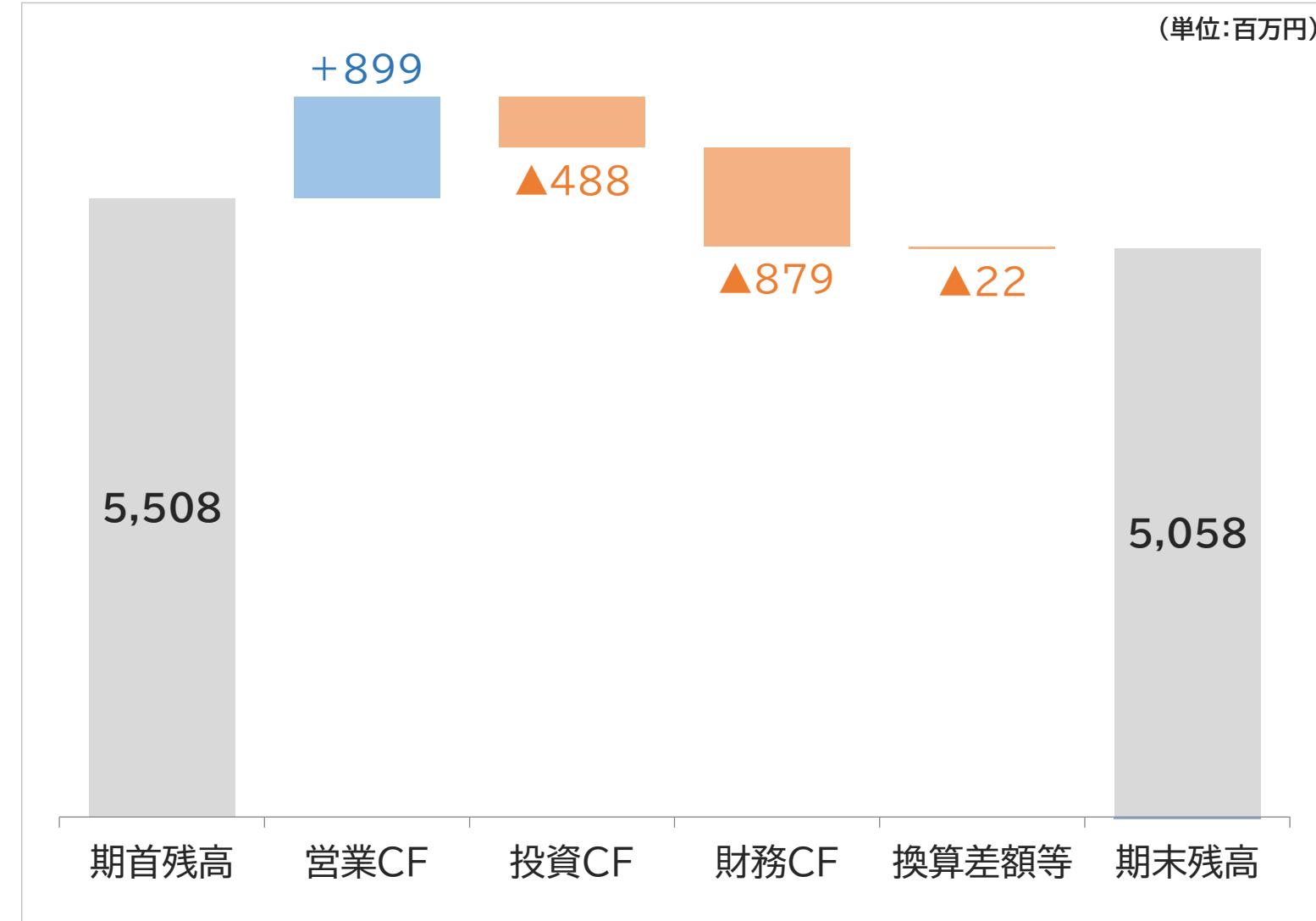
- ・税金等調整前中間純利益 + 919
- ・減価償却費 + 599

投資キャッシュフロー

- ・有形固定資産の取得による支出 ▲400

財務キャッシュフロー

- ・長期借入金返済による支出 ▲817
- ・配当金支払額 ▲229



26/2期の連結業績予想

▶ 通期予想の前提

- ・原油価格:79.5ドル/BBL
- ・為替レート:145円/ドル

▶ 1株当たり年間配当金(予想)

- ・45円(中間:20円、期末25円)

(単位:百万円)	26/2期 予想	26/2期 中間期実績	進捗率
売上高	36,500	16,865	46.2%
営業利益	1,750	949	54.3%
経常利益	2,100	922	43.9%
当期純利益※	1,300	506	38.9%

※親会社株主に帰属する当期純利益

目 次

● 経営環境および業績の概要

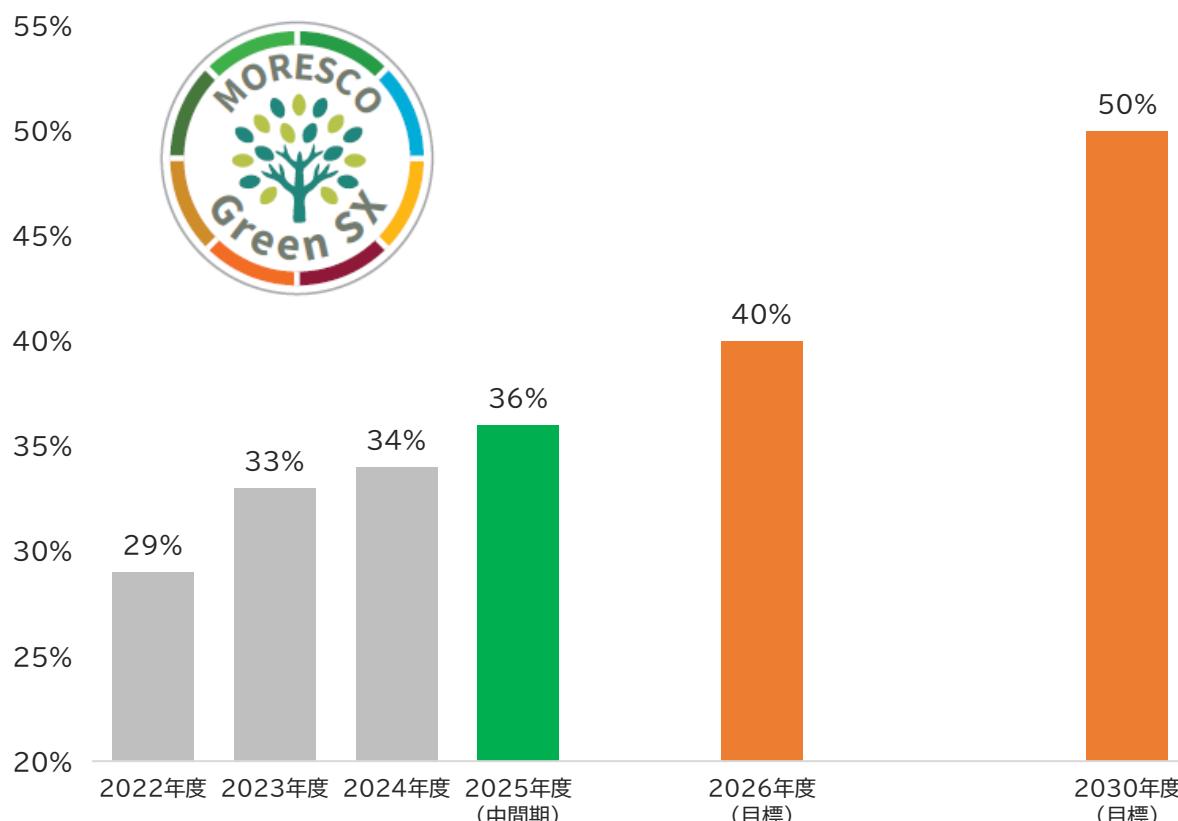
● 業績の状況

● トピックス

26年2月期のトピックス(MGS製品売上比率)

顧客の環境対応ニーズに応える製品(MGS製品※)を、日本国内に留まらず、タイ、中国においても提供し、MGS製品の売上比率は上昇傾向(水溶性切削油、難燃性作動液、真空ポンプ油など)

MGS製品売上比率目標



※MGS製品について

当社は、原料調達から廃棄までのライフサイクル全体を評価し、当社のマテリアリティへの貢献要素が特に大きい製品をMGS製品(MORESCO Green SX製品)に認定しています。

(MGS製品認定の流れ)

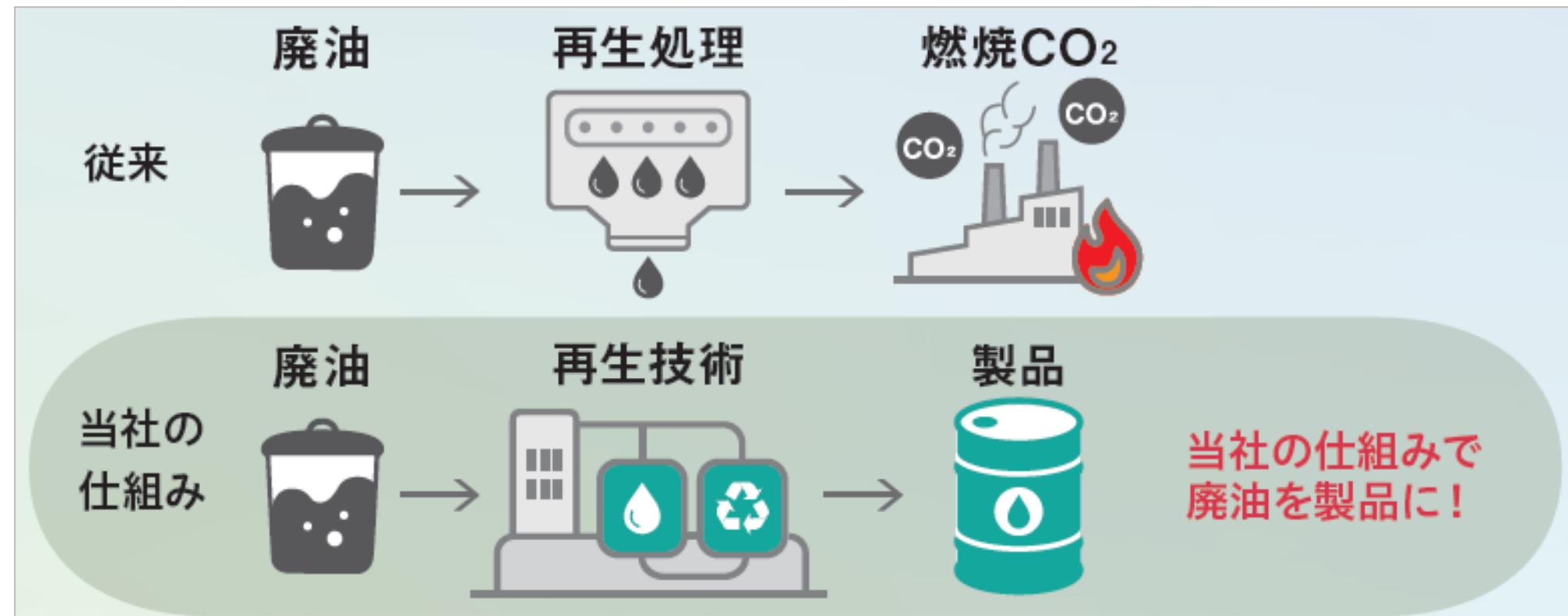


26年2月期のトピックス(マテリアルリサイクル)

原料のリサイクルシステムを確立し、再生した油を原料として再利用

- 当社は、廃油を回収し再資源化するリサイクルシステム(再生技術)を確立し、一部の製品において、再生した油を原料として製品に再利用しています。従来の廃棄処理にかかるCO₂発生を抑制することができ、また、製品コストの低減にも繋がります。

原料のマテリアルリサイクル



26年2月期のトピックス(PFASフリー潤滑剤の取り組み)

半導体製造装置向け潤滑剤を開発し、国内外でサンプルワークの推進を継続

PFASフリー製品について

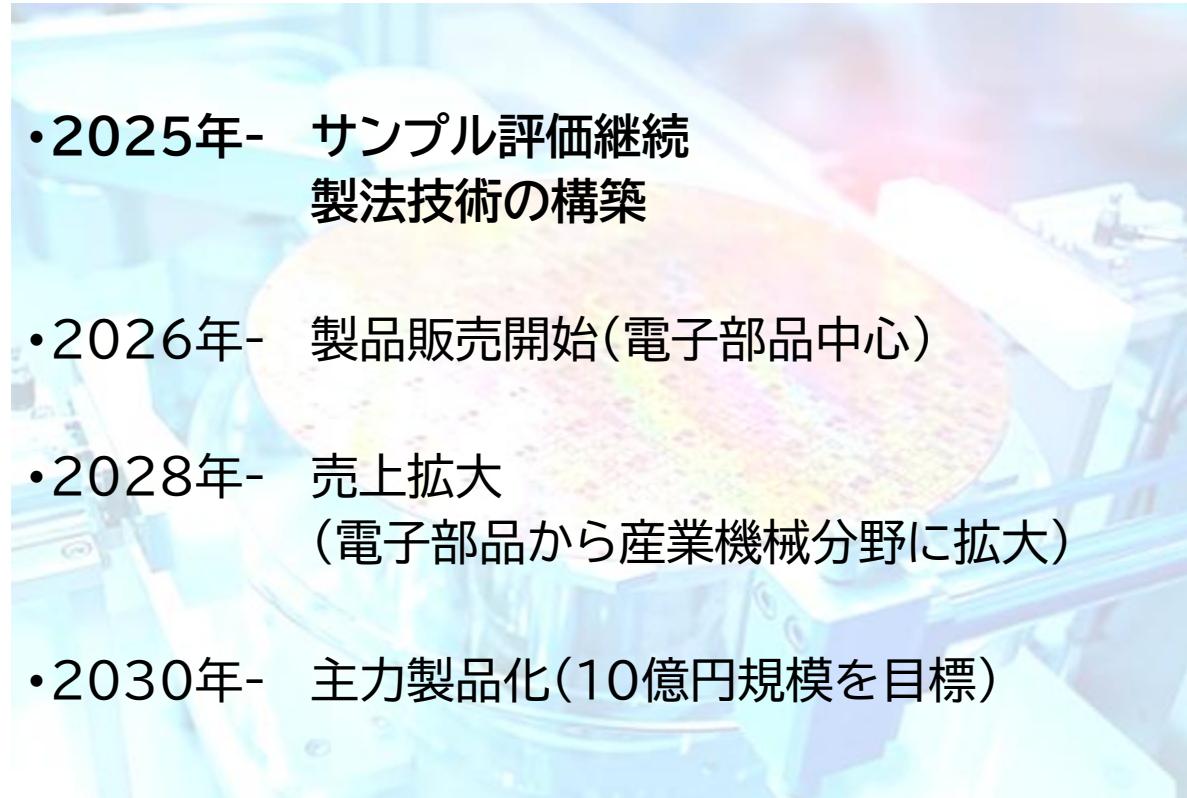
(当社の取り組み)

- ✓ フッ素系(PFAS)グリース市場(世界)は2024年の720億円から2029年には1,100億円以上まで成長するとの見方があります。
- ✓ 当社は、これまでに培った高温用潤滑油などの分子合成・配合技術を活用し、当社は半導体製造装置市場および産業機械市場でPFASフリー製品の展開を図ります。

(当社製品の特長)

- ✓ 当社の製品は、蒸気圧が非常に低いのが特徴で、半導体製造における高温・高真圧環境下でも使用が可能です。
- ✓ アウトガスの発生が極めて小さいため、安定した真空環境を維持できます。
- ✓ 近年、半導体の微細化などにともない潤滑油の使用環境が厳しくなるなか、アウトガスによるウエハーの汚染を抑えることができることから、歩留まり改善に寄与します。

事業化スケジュール

- 
- 2025年- サンプル評価継続
製法技術の構築
 - 2026年- 製品販売開始(電子部品中心)
 - 2028年- 売上拡大
(電子部品から産業機械分野に拡大)
 - 2030年- 主力製品化(10億円規模を目標)

26年2月期のトピックス(ハードディスク表面潤滑剤)

moreesco

データセンター向けニアラインストレージHDD市場は、今後も拡大する見通し

HDD市場(ニアラインストレージ)の推移

当該グラフは掲載許可期限終了のため
非表示としています。

ハードディスク表面潤滑剤について

- 当社のハードディスク表面潤滑剤は、ディスクに記録された情報をナノレベル※の薄膜で保護し、ハードディスクの信頼性向上に貢献しています。
- 当社は顧客ニーズに対応した新製品の開発を継続することで、シェアの維持・拡大に努めています。

※ナノ:十億分の一



ハードディスク表面潤滑剤
モレスコホスファロール

出所:富士キメラ総研「2025 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」

Copyright © MORESCO Corporation All Rights Reserved.

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ



MORESCOグループ統合報告書2025

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。